

坊守スケッチ

抹茶de『まったりサロン』



三年に及ぶコロナ禍もようやく出口が見え始め、マスクも個人の自由に任され解放感を味わいつつあります。コロナ前と全く変わったのが、少子高齢化が一層進み、周囲は独居老人や高齢世帯が目立ちます。その結果地域の絆は薄れ、寂しい時代を迎えました。

百年の歴史を誇る三全仏教婦人会も、会員数の減少傾向が止まりません。かつては多人数を誇ったのに、現在は減少の一途。先月の総会の場で、今後の運営費を心配する余り、会費の値上げ案が出されましたが、値上げよりも魅力ある活動の提案がされました。

その一つが冒頭に掲げた『抹茶deまったりサロン』です。今年の三役さんの中に、茶道遠州流家元参与・撫子会会長の女性が選ばれました。先生は地元の小中学校や中・高でも若者を指導され、小杉町の町民祭でも広くお抹茶を提供されました。窮状をお話したら、「先ずお寺でお抹茶を点でて、皆さんと楽しく歓談する場を設けましょう」と快く賛同して下さいました。

先生から簡単なお点前の作法を学び、テーブル・椅子席で各自がお抹茶を点て和菓子と共に味わいます。その後は自由にお喋りタイム。日時は6月28日(水)午後2時、所は善正寺本堂、費用は二百円、非会員でも大歓迎です。

『抹茶deまったりサロン』のネーミングは小6の孫と若坊守が考えました。「まったり」には「ゆっくりとくつろぐ」という願いが込められています。お寺は聴聞する場所は勿論ですが、皆さんの笑顔に出会い、ゆっくりとくつろぐ場所でもあります。どうか三全仏教婦人会主催の『抹茶deまったりサロン』に奮ってご参加下さい。申し込み締め切りは6月20日、役員さんか両寺まで。三全仏教婦人会の命名の由来は、「社会」「家庭」「個人」を全うすること。百年前に農繁期に共同で一時的託児所として始まった女性たちの「智慧とパワー」に学びたいと思います。

お悔み申し上げます

★北間脩史様(76) 3月10日往生
みゆきヶ丘 合掌

★佐藤美知子様(101) 3月19日往生、西松本 合掌

★駒田艶子様(88) 3月27日往生
城東町 合掌

カンパありがとう



YT様、TS様、水谷勝子様、山中ツヤ子様、海野公子様、他匿名様、切手等頂戴しました。感謝申し上げます。

『抹茶deまったりサロン』のお誘い

三全仏婦主催『抹茶deまったりサロン』の参加者募集。6月28日(水)午後2時、非会員も大歓迎。200円

若坊守の子育て日記No.100

三月に行われた野球のWBCではまさにドラマのような戦いが繰り広げられましたね。

大谷選手やダルビッシュ選手等大リーグで活躍するスター選手や強靱な投手陣に夢中になっている長男(小六)を見て、自分の小学生時代を思い出しました。

阪神淡路大震災の翌年、当時イチロイ選手が所属するオリックスがリーグ優勝を果たしました。振り子打法で次々にヒットを打ち、多くの記録を打ち立て、その姿はまさにスターでした。ユニフォームの袖に書かれた「がんばろうKOBÉ」の合言葉と共に活躍した姿は勇気と感動をもたらしました。

それまで野球のルールに詳しくなかった私でしたが、テレビに出ているイチロー選手を見て理解できるようになり野球観戦が面白くなりました。今回のWBCで初めて野球を見た子、野球をやってみたい子、もっと頑張りたいと思った子が沢山います。

「野球界の未来のため」に栗山監督が率いる日本代表選手を見せてくれた数々の名場面は、何度見ても痛快で野球の面白さと底力を感じました。

プロ野球が開幕し、しばらくわが家は野球にどっぷり浸かる日々が続きます。



俳壇

古雛子も早還暦に成りにけり 釋妙水

つまづきておでこ地面に仏の座

ひとにぎり一人のための土筆つむ

谷底に雪崩れるごとく山桜 釋樂邦

人知れず命を燃やす山桜

満開の花に囲まる峽の村

大根を両手にさげて友来る 釋住安

目白鳴く見えかくれて花こぼす

綿入れの母の温みに咳ひとつ

菜の花や水面眩しむ三滝川 釋普教

たゆたひし川面におちし紅椿

わらしべを啜へし軒の雀かな

春のそら音楽室に向かう橋 釋秀龍

ロッカーに積まれしノート春の暮

春のあさ上靴洗うブラシの音

春宵や人を待つのは花の下 釋清風

花影の川面に遊ぶ親子鳥

桜薬諸行無常と降りにつけり

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」353号をお届けします。◇京都国立博物館で開催の「親鸞展」(5月21日迄)は親鸞聖人の御生涯や人間像が浮かぶ大規模展。団参とは別に一見に値する。皆さま是非見学なさるようお勧めします。◇本願寺の法要は、インターネット中継でもお参り可能です。4・24・29・5・6・11・5・16・21、午前10時と午後2時。これも仏縁の一つとお勧めします。◇自己中心的な言動により自ら苦しまねばならぬ我々凡夫が、仏さまの柔軟心を賜り本当の「生まれ甲斐」に目覚める、念仏の道。合掌。

先月京都国立博物館で開催中の「親鸞展」を午前中に2時間
かけて見学し、午後からは西本願寺のご法要に参詣しました。
喜正寺の団参は5月21日ですが、個人的に一足お先に予習
して、その感激をお伝えします。親鸞展では八百年の
時空を超えて親鸞様がお出ましになられた様子を喜びまし
た。お顔は頬骨が張り眉毛が上がって意志が強固そうです。
親無量寿経の書写で、統の余白にびっしりと書き込まれた
朱書の注釈に驚きました。ちうそくの灯り一つで何度も文書
を練り直された跡があり、親鸞聖人の救いを求める熱
意と迫力が、時代を超えて私の胸に迫りました。親鸞聖
人の生涯は波乱万丈でした。二七三年ご誕生。幼くして両親
と別れ、九歳でお得度。二十九歳で比叡山を下りて法然様の
弟子。三十五歳で越後に流罪。四十二歳で関東に布教。五十二歳
で教行信証の執筆。六十歳で上洛し書写に専念。八十四歳で
関東で誤った教えが広まり、息子善鸞を遣わすが、善鸞が更に異
なる教えを広めて混乱を招いたので義絶。二六二年九十歳で
往生。晩年六年間は最も辛い日々でしたが、阿弥陀様に全
てをお任せするしかないという境地にたどり着かれたのだと
思いました。親鸞様の「南無阿弥陀仏」というお念仏一つ
で救われるという分り易い教えが、あつちゆる時代の人の
心にも響いて、後世にも長く伝わった由縁だと思います。
あなたもこの機会に親鸞様のお人柄に触れて、人生
百年時代、何が起ころの知れぬ予期せぬ荒波を、逞しく
乗り越えて参りましょう。合掌

令和五年五月

善正寺坊守 拜